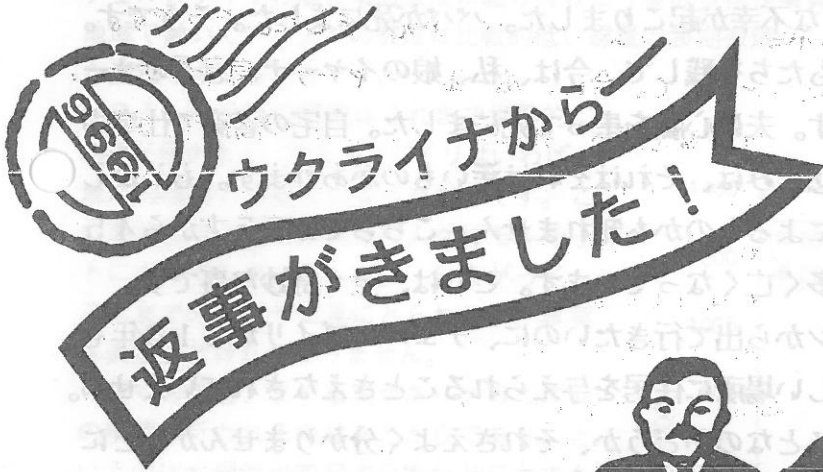


チェルノブイリに思いをよせて

# ポレーシエ



たった一回の原発事故で  
ウクライナの母たちからの手紙

チェルノブイリ原発事故から、10年

《107通の手紙》の人たちは、

どんな暮らしをしていたのでしょうか

○たちの呼びかけに応じて、

今日までに25通の返事が届きました

(2Pに掲載しています)



—《事務局》〒466 名古屋市昭和区楽園町137-1-10—

チェルノブイリ救援・中部 代表：渡辺春夫

【郵便振替】00880-7-108610 (旧番号 名古屋8-108610も可)

☎FAX:052-836-1073 (月・水・金・10:30~15:30)

(問い合わせは、お名前とシールの番号を明記し、返信用切手を同封の上、なるべく郵便でお願いします。)

こんにちは！ 親愛なる遠方のお友達！

ウクライナから皆様へ、フィゴフスキー一家より、お手紙を差し上げます。私達は、お手紙を受け取りました。そしてとても喜びました。本当にどうも有難うございました。私達は、長い間お手紙を差し上げませんでした。けれども、皆様のごことは忘れる事なく、しばしば思い出しています。が、こちらには、とてもたくさん<sup>の</sup>問題がありました。

私達の家族に、とても大きな不幸が起こりました。パパが死にました。そうです。私の夫が死にました。子どもたちを残して。今は、私、娘のイヤーナ、息子のサーシャの三人で暮らしています。夫は心臓を患って死にました。自宅の書斎で仕事中に亡くなりました。私達の悲しみは、それはそれは深いものがあります。もしかしてそれは、チェルノブイリによるものかも知れませんが、こちらでは35才から45才の中年の人々が、非常に多く亡くなっています。これは、全く奇妙な事です。私達は、この町、このゾーンから出て行きたいのに、チェルノブイリから10年も経ってしまった今でも、新しい場所に住居を与えられることさえなされていません。移転が、私達にとって良いことなのかどうか、それさえよく分かりませんが、とにかくここで暮らすことが恐ろしいのです。ここには、未来はありません。でも、仕方なく住んでいます。非汚染地域の新しい家に移ることだけが、今の願いです。

このように残念な有り様ですが、とにかく私は働き、子ども達は学校に行っています。何とか、全てをやって行かなければならないので、暇がありません。

こちらの冬は、厳しい寒さが比較的少ないのです。

ところで、皆様はいかがお過ごしですか？ 気候はいかがですか？ お子様はたいがいかがですか？ 皆様が、私達のために援助や同情をして下さり、そのために苦勞<sup>を</sup>して下さることに感謝しています。本当にありがとうございます。私達は、遠いけれどこんなに素晴らしい本当の友達がいることを、嬉しく思います。感謝しています。

返信券ありがとうございました。言葉の点で厄介なことには、私は英語ができません。ロシア語で書きます。それで文通できるでしょうか？

では、今日はこれで失礼します。さようなら！

私達を忘れないで、ご返事を下さったらとても嬉しいです。

敬意をこめて・・・

フィゴフスキー一家 ベーラ、イヤーナ、サーシャ

96・2・6

## 被爆と病気

前回に続き、汚染地域で働く人々の病気と放射線被爆について報告します。

1986年の事故以来様々な病気がこれらの人々に増加していることは前回紹介しました。

これらの病気がはたして放射能と関係があるかどうかは大いに問題です。現在多くの放射線障害は広島と長崎の被爆者の追跡調査と、世界中の放射線事故の研究から得られた結果を基にしています。こうした研究結果がチェルノブイリでも当てはまるかどうかは、大いに疑問があります。なぜなら、広島、長崎の場合は1回きりの瞬間的な強烈な外部被爆による影響であるのに対し、チェルノブイリの場合事故直後に駆け付けた「事故収拾作業員」は別として、住民やその後汚染地域で働いている人々の被爆は比較的低い線量の長期被爆、しかも食べ物による内部被爆が大きな比重を占めるからです。

こうした分野の研究はこれまで世界的にも殆ど例がなく、チェルノブイリはいわば、地球的規模の実験台となったわけです。この事故によって汚染地域の人々はモルモットにされてしまいました。したがって、これまでの知識や偏見にとらわれず、事実を直視しなければなりません。

多くの場合、まず事実がありメカニズムの解明が行われるのはあとからである、というのは水俣病や四日市公害など日本でも経験があることです。

右の図はウクライナの軍のコンピューターに登録された、1992年に於ける汚染地域で働く労働者12500人の被爆と病気の関係を示すデータです。25レム（0.25シーベルト、Sv）以下と25-100レム（0.25-1.0 Sv）の被爆者を比べると、明かに後者のグループが様々な病気の割合が多いことが分かります。特に、血液循環器病や脳血管病では大きな違いが見られます。被爆線量の多い人々に、ノイローゼが多いことも注目されます。このことは、ストレスによるノイローゼが単に個人的な資質や思い込みによるものではなく、被爆と深い関係にあることを伺わせます。病気全体を比べれば、0.25 Sv以下の人々が平均2つの病気にかかっているのに対し、0.25 Sv以上の人々は平均5つの病気をかかえています。こうした事情を考えれば、ノイローゼは様々な病気の結果、つらい毎日や将来を悲観したりすることによる当然の結果かも知れません。（河田昌東）

被爆と有症率

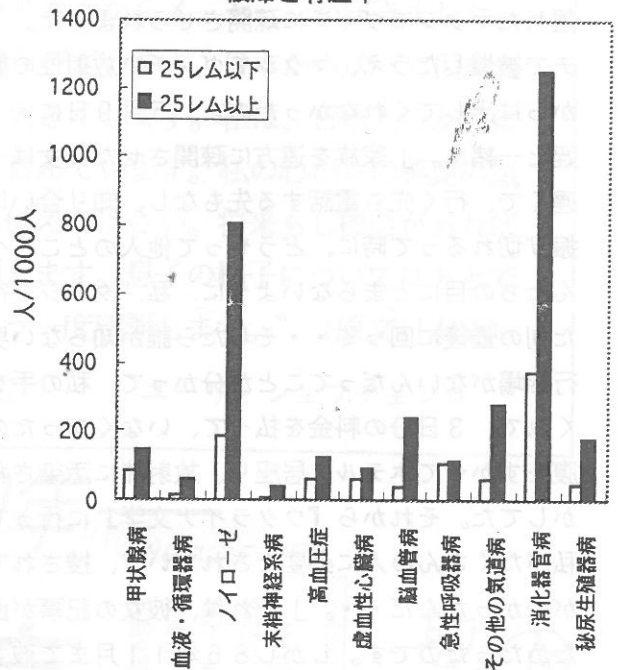
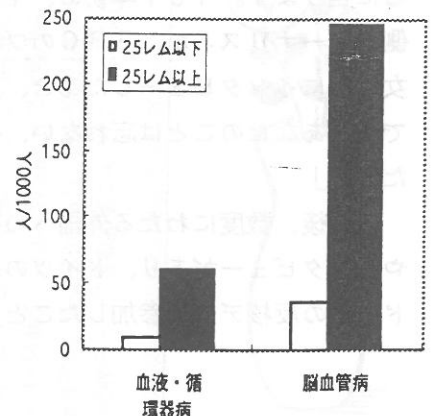


図2 抜粋



## コバレフスカヤさん・いよいよ来日！

《竹内さんからの手紙=畏友コバレフスカヤさんのこと》

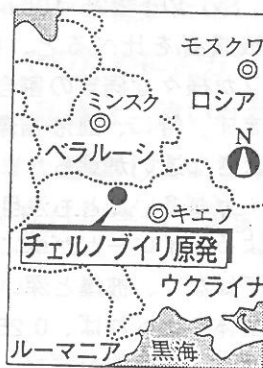
(前略)コバレフスカヤさんは9年後のインタビューで語っています。

「まず強調しておきたいのは—ヒロイズムとかは、全然なかったっていうこと。単に、何をやっているのか、自分でも分かっていなかった。忘れないでほしいんだけど、私はコミュニストで、新聞の編集者で、要するに体制側の人間だったのよ。後になってから『闘士』っていうことにされてしまっただけ・・・多分、私はシベリアの人間で直情型だし、ナイーブなたちで、それに記事の内容は珍しい、正確なものだったから・・・」 「それに記事はまるきりソ連ジャーナリズムの型通りに仕上げたのよ。ブレジネフの引用『社会主義競争』についての御託とか・・・でなかったら単に印刷されなかった。」しかし、この記事で彼女は、1号機から4号機(完成後間がなかった)の建設過程を分析、原発の建設と運転はすべて基準どおりでなければならないはずだか、事実がそうでない以上、「非常事態も大いにありうる」と指摘したのです。事故後、86年4月27日、原発から15km離れたマクシモヴィチに疎開させられました。「犯罪以外の何物でもないよね。プリピャチで被爆したうえ、マクシモヴィチで放射線の塵をしょこたま吸い込んだわけ。『ゾーン』からは出してくれなかったのよ。5月9日に・・・文字通り逃げ出したんだ、母と、娘と、姪と一緒に。」家族を遠方に疎開させた彼女は一文無しでキエフにたどりつきます。「夜遅くで、行く先も電話する先もなし。知り合いはいたけど、服に検知器を近づけたら針が振り切れるって時に、どうやって他人のところへ行けていうの・・・酔っ払いのおっさんたちの目にとまらないように、私、タクシー待ちの行列に並んだ。私の番になると、また列の最後に回って・・・そしたら誰か知らない男の人が、私が『ゾーン』から出てきて、行き場がないんだってことが分かって、私の手を取ってホテル『モスクワ』に連れて来てくれて、3日分の料金を払って、いなくなったの。3日間、私は腹をすかせてホテルに居座り、放射能に汚染された服を洗って乾かした。それから『ウクライナ文学』に行ってみたら、突然、私がたくさんの人に必要とされていて、捜されてるんだってことが分かったんだ・・・。」それは、彼女の記事が西側で紹介されたためだったのです。しかし86年11月まで彼女には新たな職も見つからず、ついに著作者連盟の事務所で、空腹のために卒倒するに至ります。「87年初め、キエフで私を探し当てた唯一の西側ジャーナリストが、BBCのブリジット・ケンダルだった。彼女は私にインタビューしたあと、盗聴器の心配なしに話せる戸外で、『あなたのことは忘れない、援助をします』ってしてくれたの。」

その後、数度にわたる外国への招待、西側の雑誌での記事発表やインタビューがあり、ドイツの緑の党からも2度招待を受け、ドイツの反核デモに参加したこともあるそうです。(後略)

キエフより・竹内高明

## チェルノフ



コバレフ  
さ

区)を皮切りに、愛知県豊橋市、岐阜県大垣市、土岐市、長野市、静岡県浜松市

市丸之内、宮  
援募金(津  
ぼく)児童救  
イリ被曝(ひ  
重チエルノフ  
一方、二三  
講演する。  
など八カ所

## 《セルゲイ君支援》 ご協力、ありがとうございました

ポーシェ31号で、キエフの日本語教師ユーリ・シェフチェンコさんの息子さんセルゲイ君の治療（睾丸悪性腫瘍）に必要な抗がん剤の資金援助をお願いしたところ、2月26日現在で319,482円のカンパが届きました。

ポーシェや新聞を見て送って下さった方が28件、山口県宇部市のドゥルージバをはじめとする団体が3件、皆さん「一日も早くセルゲイ君が回復しますように」とのメッセージを添えて送って下さいました。

今セルゲイ君は、抗がん剤の投与を受け手術にそなえています。送られた抗がん剤は、副作用が少なくしかも効果の上がるもので、セルゲイ君の症状は安定に向かい、たまには自宅に帰れるまでになっているそうです。

● 皆さんのご協力に感謝してお父さんのユーリさんからメッセージが届きました。  
“この困難な時に私を援助して頂いて有り難うございます。日本から送って頂いた必要な薬は、息子の回復のチャンスをより大きくします。私は、日本人の友達について考えた事が間違っていなかったのを喜んでいます。私の心からの感謝の気持ちを受けて下さい。その言葉を皆さんに伝えて下さい。将来もし機会があれば、私もいつでも喜んで応分の援助をさせていただきます。息子の様子についてはあとで手紙を出します。お世話になったことをもう一度感謝します。”（原文日本語）

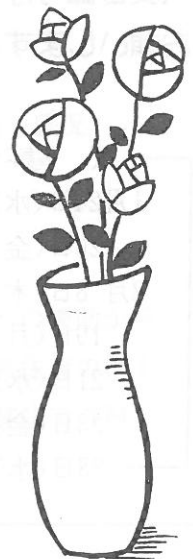
1996年1月20日

ユーリ・シェフチェンコ

## イリ 原発事故から10年

1996.2.25 中日

ウクライナで起きたチェルノブイリ原発事故から十年を迎える四月、中部地方各地でも被災者への支援を呼び掛ける記念事業が、市民団体の手で開かれる。被災地域では、被爆国・日本に連帯と信頼の念を寄せており、市民団体も十周年を機に支援活動を再び活性化させようと懸命だ。



# 支援活動に 再び「力」を

日本の市民グループとし 招き、講演会を開く。

ては初めて現地を訪問する コパレフスカヤさんは、  
など先駆的な活動が続けて チェルノブイリ原発取材の  
いる「チェルノブイリ救援 ため近くの町に移住してお  
・中部」（名古屋昭和区、り、自分も被ばく。後遺症  
渡辺春夫代表）は、同原発 に苦しみながら、事故の真  
の危険性を事故発生の一カ 相を求めて取材してきた。  
月前に報道し、国際的注目 「救援・中部」は、彼女の  
を集めたウクライナの女性 著書「チェルノブイリ秘密  
ジャーナリスト、リュボフ 文書」を翻訳・出版する準  
イ、コパレフスカヤさんを 備も進めている。

初来日となるコパレフ  
スカヤさんは、四月六日の名

# 今年度の医師研修は聖隷浜松病院に決定

本年度実施が遅れていました医師研修は、静岡県浜松市にあります聖隷浜松病院の未熟児センターで実施していただくことが決まりました。研修されるのは、ジトーミル州立小児病院で新生児救命救急部門担当しているイゴール・グメンチュク（男性、33才）さんです。

実施期間は1996年5月7日から6月3日です。

チェルノブイリ原発事故以来、私たちが現地を訪れて度々医師から耳にすることは、出産異常が多くなったとか乳児死亡率が高くなったということです。現地においては新生児、乳児死亡率を下げることは大きな課題となっています。昨年7月現地訪問をした際、ジトーミル州保健省バラモノフ大臣は小児救急医療に重点を置きたいと話していました。

財政的には国際ボランティア貯金補助による事業となっていますので、ボラ貯から資金援助はございますが、総てをまかなうことはできません。1ヶ月間、病院近くのアパートから病院に通い、生活することになります。渡航や生活に係る部分は総て中部とボラ貯の援助で賄うこととなります。日本に来たからには広島を訪れ、核の恐ろしさを見ていただくことにしています。病院側には研修費は一切無しでお願いしております。どこのボランティア団体もそうだと思いますが、この年度代わりの時期は、財政が最も逼迫する時期で、「チェルノブイリ救援・中部」もそれにもれません。コバレフスカヤ講演会も会場の席を総て埋めても赤字になるという状況で、大変苦しい台所事情があります。いつも寄付していただいている方には、大変目障りかもしれませんが、この機会に御無沙汰しておられる方にはぜひ寄付をお願いします。

（代表 渡辺春夫）

## 《 事務局日誌 》

- 1月24日(水)セルゲイ君の坑ガン剤、東京の商社あてに、宅急便で送り出す。
- 26日(金)「107通の手紙」発送
- 2月 8日(木)コバレフスカヤ講演会名古屋会場決定。準備にはいる。
- 19日(月)「107通の手紙」ウクライナから返事が来る。
- 21日(水)外務省から、コバレフスカヤさんのビザ申請書類到着。ただちに対応。
- 23日(金)郵政省より、ボランティア貯金交付金についての監査。
- 28日(水)スタディ・ツアー実施…ビザの申請書類づくり、講演会準備、超多忙。

皆さん！「Здравствуйте（ズドラストヴィーチェ）！」「こんにちは！」

「え～と、「P」はローマ字でいうとRで、「B」がV、「C」がSで、「H」がNと・・・。あれ？「Я」は、Rの間違いじゃあないの？」ロシア語がこんなにややこしいとは思ってもみませんでした。悪戦苦闘しながら、ロシア語会話教室が進みます。

でも、教室では笑顔・笑い声がたえません。きっと、皆の心は、はやウクライナの地に飛んでいるからでしょう。

講師タチアナさんからは、「ウクライナの文化・歴史」についても学びました。周囲の国々から幾度となく侵略されてきた歴史。しかし、美しい自然のなかで、たくましく生き続ける人々。「素敵な故郷です。」というタチアナさんの顔が、突然、曇りました。

「あの、チェルノブイリの事故さえ起こらなかったならば、・・・。」  
現地の人々は、深い悲しみと、不安と、不信に包まれながら、静かに一日を過ごします。  
私たち15名ができることは、とてもちっぽけです。しかし、日本には、ポーシェの読者をはじめ、たくさんの友達がいるということをし、しっかり、伝えてきたいと思ひます。

「З а д р у ж б у（ザ ドルージブウ）！」「友情のために！」

スタッフ 神野

### 運営委員会報告・・・2月18日（日）名古屋・チェル救事務所にて

#### ★ウクライナ医師の医師研修受け入れについて

ジトーミル州立小児病院のイゴール・グメンチェク医師（男性）を聖隷浜松病院で受け入れていただく予定。期間は5月7日から6月5日。研修の他に、広島訪問予定。

#### ★ボランティア貯金事業の実施報告・・・超音波診断装置1台を購入。これは、ボグノコイ州第三子ども診療所で、被災者である子ども達の為に使われる予定。

#### ★スタディ・ツアーについて

スタディ・ツアーの準備を開始。事前講座は、ツアー参加者以外の出席も得て盛況。

#### ★コバレフスカヤ講演会実施について

2月16日、名古屋市女性会館にて記者会見。様々な準備開始する。

#### ★2月10日の合宿での報告と今後の方針について

従来の、基幹病院への支援を中心とした医療のレベルアップ型（開発発展）の援助から転換して、医療のあまり行き届かない、チェルノブイリ被災者の暮らす「移住者の村」にしてはどうか。以前来日した、ヴァロージャ医師の居るバラノフカの「移住者の村」を対象として、早急に調査活動を開始する。

#### ★次期代表は、名古屋のメンバーの神野英樹さんに決まる。



## 読者のひろば

(前略) 原発反対意見の方々(私も含めですが)と、そうでない方々との大きな違い・・・それは何でしょう。◇一回の事故で、とり返しのつかないことになるのが分かっているから、とにかく、安全でないと思われるものは止めよう! ◆大事故になるかもしれないが、実験は必要であるし、何とんでもエネルギー超輸入大国の日本の為に、他に考えつかない、大事故なんてない! やる価値はある!

ちょっと言葉足らずですが、要するに、止めましょうよ(安全第一)、やってみましょうよ(冒険第一)の考え方のちがい。後者はもしかしたら、「死なばもろとも」どうせこの世界はエネルギーがなくなれば終わり、と思っているかもしれない。

私自身、前者ですが、後者的立場で見ると、もしかしたら、エネルギーの不足=原発しかないと思っているから、こんなに強気で、やりましょうよ、と言うのではないのでしょうか・・・原発反対の署名にしぶる年配の方の言葉に「かわりのエネルギーはどうするつもり? 初めてついた電灯の光のありがたさが忘れられない。こんなに便利になった今の生活を変えることできない。」というものもありました。

私など単純に、もっと質素に、国(地球)をあげて企業も質素にしまえば、つまり経済優先を放棄してしまえば、いろんな面で地球が長生きできるのにと思うのですが。それは理想で実生活ではそうも言えないところも分かります。

さて、ではどうすれば・・・あとは原発でないエネルギーの開発です。生活はもちろん質素を呼びかけつつ、でも使われるエネルギーを作り出していくしかないのではないのでしょうか。

そこで、知りたいのですが科学技術庁や国、果ては何の部門か分かりませんが、新エネルギーの研究機関(新エネルギー開発団?)の今の段階の動きです。(中略)

新エネルギーの開発や思いつき、発想の転換などの内容で、何か事実があれば教えて頂けるとうれしい、ということです。

コバレフスカヤさんのお話し、楽しみにしています。ポレーシェ、頑張ってお出し続けてくださいね。  
(名古屋市千種区のM、Mさんより)

《編集後記》◎ヤッター、読者から待望の投稿がありました。勝手に短くして、ごめんなさい。(幸) ☺またまた来ました花粉症。涙とハナミズでワープロが見えないよ。(まや) ☺この季節、鼻と目が♪ズビスバーババヤ状態。(M) ☺私の家では、新エネルギー財団(通産省)の補助を受けて、昨年より5kWのソーラー(太陽光)発電開始。原発の電気を使いたくないので、お日様が照るとうれしい毎日です。(み)